

歯科医療界は一枚岩となって前進することが必要

医療制度のグランドデザインを描くのは私たち医療人

自由民主党参議院議員(神奈川県選挙区)

島村大氏に聞く

第一九一回臨時国会が召集された八月一日、自由民主党参議院議員の島村大氏へのインタビューが実現した。島村氏は一九八五年に東京歯科大学を卒業後、二〇一三年に参議院通常選挙神奈川県選挙区から立候補し、初当選を果たした。

今回は、島村氏が議員初当選するまでの経緯や、当選当時と現在の思いや立ち位置、二〇一六年度診療報酬改定への所感、企業健診への歯科健診導入構想のほか、日本の歯科医療の問題点、島村議員の後に続く若い歯科医師へのアドバイスなどを伺った。

その中で、議員生活の中で味わった現実や、さまざまな交渉の中で培った見識、国民皆保険制度を含む社会保障制度をきちんと子や孫の代まで残すという気概と志に触れることができた。

なお、聞き手は、協会広報・ホームページ部の小林頭部員が務めた。

国会議員を目指した経緯と痛感した現実

●小林頭部員 まず、国会議員を目指した経緯、当選三年目の現状と今後の方向などについて。

◆島村大氏 私の親兄弟や親戚に歯科医師はいません。大学の医局を退職した



プロフィール

島村大(しまむら・だい)／1960年8月11日、千葉県市川市出身。1985年に東京歯科大学を卒業して歯科補綴学第3講座に入局の後、1990年神奈川県横浜市内で歯科診療所を開業。2005年に神奈川県歯科医師連盟理事長就任し、2011年には日本歯科医師連盟理事長に就任。2013年参議院通常選挙神奈川県選挙区で初当選。議員としての役職等は、①参議院：厚生労働委員会理事、予算委員会委員、ODA特別委員会委員、国の統治機構調査会理事、②自民党：厚生労働部会副部長、文部科学部会副部長、行政改革推進本部幹事、首都圏整備特別委員会幹事、③その他：国民歯科問題議員連盟事務局次長、次世代の社会保障構想議員連盟幹事、資源確保戦略推進議員連盟幹事、ヘルス&コミュニティ議員連盟幹事など。

が多数、返戻・査定されるようになり、これに大きな疑問を抱きました。地域歯科医師会にサポートを求めつつ歯科医師会活動に参加している時、地域歯科医師会理事に抜擢されました。

しかし、診療報酬については地域では対応しきれないことがわかって、神奈川県

2016年度診療報酬改定に関して

●次に、今回の診療報酬改定について。

◆島村氏 今回の診療報酬改定では、国の予算や財源

歯科医師会に関わるようになり。そして、神奈川県歯科医師連盟理事長となつて関係各方面と交渉を

始めましたが、ここでも限界を感じ、「社会保障政策とは国策である。ならば政治のフィールドに飛び込む」と考えました。その時、

自民党が参議院神奈川県選挙区の候補者を公募していることを知り、応募。現在に至っています。議員経験を活かしたいが、国会議員としての発言力を強くするにはとにかく当選し続けることが必要で、応援、支援して下さる方々への感謝の気持ちを常に忘れないよう心がけています。私は、議員になったからには、疲弊する歯科医療界を何とかしたいと思っています。た

だ、私は職域代表ではなく、神奈川県選挙区選出です。歯科だけでなくさまざまな問題に対応する必要があります。日々勉強の毎日です。

●やはり当選を重ねることは大事ですね。

◆島村氏 正直なところ、「議員として事を成し遂げるには選挙に強くなければならない」「議員は選挙で勝たねばならない」ことを痛感しています。また、議員

キャリアも一期だけでなく二期、三期と重ねると発言力も伴ってきます。自民党の部会で通すことができない案件は閣議決定でまかせんが、同じ案件を説明して理解を求める際も、ベテランと新人が話すのでは、まったく様相が違ってくる

ないかもしれません。これは「か強診に乗ってほしい」というメッセージです。私は、この地域包括ケアシステムに歯科の将来があると思っています。

●しかし、「歯科訪問診療はハードルが高い」と考える歯科医師は多いよう

企業健診への歯科健診導入 日本の歯科医療が抱える問題点

●議員が以前から熱心に取り組まれている歯科健診の充実について。

◆島村氏 私は何とかして企業健診に歯科健診を義務づけさせたい。今年の参議院選挙の自民党の公約には、特定健診(メタボリック・シンドローム対策)に

◆島村氏 今の歯科診療所経営は大変です。確かに、か強診を届出しようにも、

口腔外バキュームを導入して、果たして元が取れるほどの患者数が本当に期待できるのかなど、疑問は残ります。口腔外バキュームに代わる同等の代替案があればよいのですが。



小林部員(手前)の質問に答える島村議員

◆島村氏 問題点の第一は、高齢社会を迎えている現在、歯科医師の教育、卒後研修の中で、「全身の中の歯科」という視点が、まだ十分に歯科医師の身につけていないことだと思えます。すでに、一部の歯科大

学で積極的な取り組みが始まっており、その成果に期待が寄せられています。第二は、高齢社会と地域包括ケアシステムという方向の中に、歯科界に大きなプラスとなる新たな可能性があるにもかかわらず、まだその理解・認識が十分とはい

きません。今こそ、歯科医療界は一枚岩となり、協力し合つて前進することが必要です。医療制度のグランドデザインを描くのは、私たち医師・歯科医師をはじめとする医療人であ

これから議員を目指す人たちに

●島村議員の後に続く若い歯科医師に何かひびくとき。

◆島村氏 社会保障制度は国が決めるのですから、国の政策や事業内容にもつと

興味、関心を持っていただきたい。また、法律をつくるのは国会議員なので、そこにも関心を持っていただきたい。志とチャンスがあれば職域代表にこだわらず、選挙区から立候補することも選択の一つだと思います。そして、目先の利益だけでなく、もう一歩先を見て考える姿勢を大事にしたい。私は、日常診療の中で感じた疑問を解決しようと考えたことがきっかけで、政治家になりました。政治家になるための特別な教育は受けてはいませんが、国民皆保険制度は持続可能な社会保障制度についてもっと俯瞰して取り組みたいと考えています。先ほども触れましたが、今後の国民のための医療制度のグランドデザインを描くのは医師、歯科医師

◆島村氏 歯科には各種の関係団体があります。同じ方向を目指しているのであれば、とりわけ歯科医療界が疲弊しているいま、お互いに手を結び、協力することが力強い組織づくりにつながると思います。

●本日は臨時国会召集初日という大変お忙しい時間にもかかわらず、貴重なお時間をいただきまして本当にありがとうございました。

地域包括ケアシステムに歯科の将来がある